

概要: 国民の命と暮らしを守るため、大雨等に対する防災気象情報の高度化に向けた対策を実施。線状降水帯の予測精度向上に向けて水蒸気量等の観測強化、海洋気象観測船の更新等による観測の継続性強化を行う。静止気象衛星ひまわり8号・9号の後継衛星について、令和5年度をめどに製造に着手する。最新のスーパーコンピュータシステムの導入による計算能力を強化するとともに、解析・予測技術向上に向けた開発体制を強化、情報システムの更新等により防災気象情報の高度化を実施する。

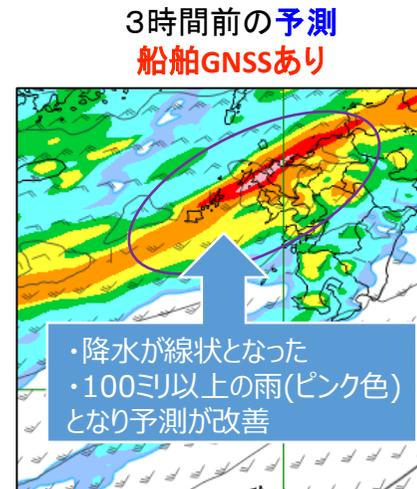
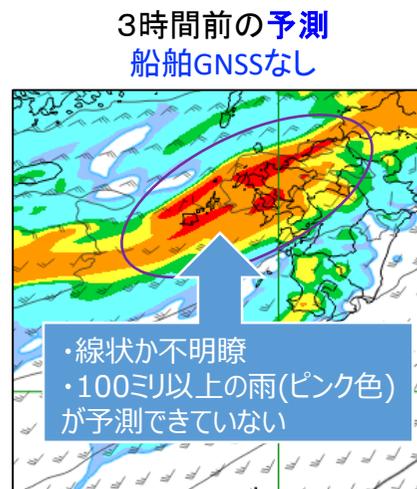
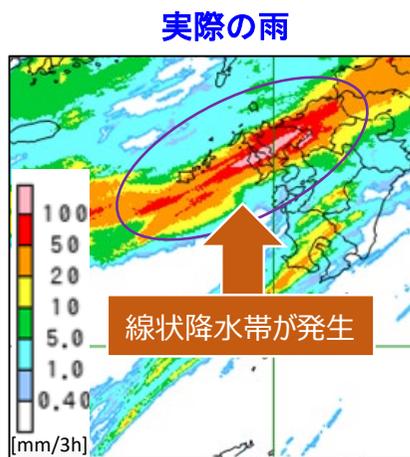
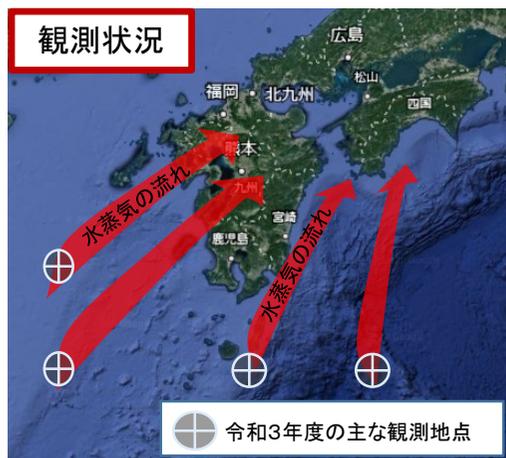
府省庁名: 国土交通省

【事例】洋上観測の強化

- 実施主体: 気象庁
- 実施場所: 船舶6隻
- 事業概要: 船舶6隻にGNSS観測装置を設置し、大気中の水蒸気を観測
- 事業費: 全体事業費 1.43億円
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分) 1.43億円)

■ 効果:

令和3年度出水期より、気象庁観測船(2隻)と海上保安庁測量船(4隻)に洋上の水蒸気を捉えるための全球測位衛星システム(GNSS)観測装置を設置し、観測を開始した。この観測データを気象庁スーパーコンピュータでの気象予測に用いることで、線状降水帯等による大雨時の降水予測の改善が期待される。



佐賀県・長崎県に線状降水帯が発生した令和3年8月14日6時を対象とした3時間降水量予測の比較(本事例は、運用前の試験観測データを用いたもの)